

第69回ベストプラクティス東京セミナー

代理店業務でのAI活用事例共有

IIABJ

日本独立エージェント&ブローカー協会（IIABJ:Independent Insurance Agents & Brokers of Japan）は11月13日、TKPガーデンシティPREMIUM東京駅丸の内中央で「第69回ベストプラクティス東京セミナー」を開催した。今回のセミナーでは「乗合代理店が成長するために」をテーマに、保険ビジネスへのAI活用事例に関する講演や、財務省関東財務局理財部金融監督第四課の吉田雅輝課長による基調講演「保険業界の構造的課題への対応」などが行われ、会員企業を中心とする参加者が熱心に耳を傾けた。



浜中会長

冒頭、あいさつに立ったIIABJの浜中健児会長（株）ビ・アール・エフ代表は、近年保険業界を揺るがした旧ビッグモーターの不祥事やカルテル、情報漏えい事件などさまざまな問題に触れつつ、2026年に施行される改正保険業法では独立系代理店やプロトカーニングが当たる一方で、われわれにとってはチャンスでもある」との見解を示した。続けて、リスクマネジメントや新種保険、グローバルプログラム対応など専門スキルの向上が必要だとした上で、業界変革期に会員企業が協力して方針や目的に沿った申



左から田中氏、千秋氏

は実演形式で生成AIを活用した事業計画策定のデモでChatGPTに事前に用意したプロンプトを投入し、会社の目標を達成するためのAI活用の取り組みを紹介した。その後、バリュー・エージェントの担当者が登壇し、自社における先進的なAI活用の取り組みを紹介した。

IIABJの浜中健児会長（株）ビ・アール・エフ代表は、近年保険業界を揺るがした旧ビッグモーターの不祥事やカルテル、情報漏えい事件などさまざまな問題に触れつつ、2026年に施行される改正保険業法では独立系代理店やプロトカーニングが当たる一方で、われわれにとってはチャンスでもある」との見解を示した。続けて、リスクマネジメントや新種保険、グローバルプログラム対応など専門スキルの向上が必要だとした上で、業界変革期に会員企業が協力して方針や目的に沿った申

保険業界の構造的課題への対応解説

まず試行錯誤で、習熟度に応じて応答レベルも調整可能で「心理的安全性が高い」ことが利点だと紹介した。

また同社では、代理店業務の定型作業についてRPAを積極的に活用していると紹介した。見積取得など複数保険会社に共通する作業は「Biz Robo!（ビズロボ）」といった外部ツールを用い、一方で自社特有の処理には自社開発のRPAを用いるなど、業務内容に応じてツールを使い

ます。生命保険営業の研修向けに開発したロールプレイングシステムで、営業職員が時間や相手に制約されず何度も何度も一連の業務を遂行する仕組みだと紹介した。現状では人間が顧客と対話してニーズを聞き取りAIに指示を出す必要があるものの、既に海外ではAIが適切なツールを選択してタスクを自

が実施した施策や業務運営状況を継続的に検証、モニタリングするPDC Aサイクルを確立する必要性を説明した。

募集管理が行われているかを代理店監査等で検証し、問題があれば期限付で改善を求めるなど指

し、保険会社に行政処分を行なう」と述べ、保険会社への監督を強化する方針を示した。

また、従来の代理店手

数料ポイント制度については「規模偏重の評価体系を改め、顧客サービス向上や法令遵守など業務

加えて、改正では保険仲立人（プローカー）の供託金が最低1,000万円に引き下げられ、顧客から手数料を直接受領でき

るようになつた点にも触れた。一方で、極端に低い手数料設定による不当競争を防ぐための規律が設けられた他、従来どおり保険会社から手数料を受け取る場合には、その額や割合を契約者へ開示

するルールが新設されたことなども説明した。

吉田氏は「これら一連の

制度変更について、い

ずれも顧客本位の業務運

営を徹底し、市場の公正

さと信頼を回復するための措置」と強調し、新たに規制環境の下で、独立系代理店が真正に実力と良識ある専門家集団として成長していくことに期待する」と述べた。



吉田氏

分けているとし、これにより、業務の効率化と標準化の双方を進めていると説明した。さらに近年登場した「AIエージェント」については、AIがRPAなど複数のツールを自動的に使い分け、人間に代わって一連の業務を遂行する仕組みだと紹介した。現状では人間が顧客と対話してニーズを聞き取りAIに指示を出す必要があるものの、既に海外ではAIが適切なツールを選択してタスクを自

が実施した施策や業務運営状況を継続的に検証、モニタリングするPDC Aサイクルを確立する必要性を説明した。中でも「記録の作成・検証が極めて重要なポイント」だとし、各社での業務監査体制の確立等が義務化されると説明した。

IIABJの浜中健児会長（株）ビ・アール・エフ代表は、近年保険業界を揺るがした旧ビッグモーターの不祥事やカルテル、情報漏えい事件などさまざまな問題に触れつつ、2026年に施行される改正保険業法では独立系代理店やプロトカーニングが当たる一方で、われわれにとってはチャンスでもある」との見解を示した。続けて、リスクマネジメントや新種保険、グローバルプログラム対応など専門スキルの向上が必要だとした上で、業界変革期に会員企業が協力して方針や目的に沿った申